

# ベトナム国家大学のホルモン測定システムの構築についての報告書

2020年3月2日（本間）

## 1. ホルモン測定研究室

- 1) VNU の医薬部門のビルの中にホルモン測定分析室を新たに大学が提供。
- 2) 写真は IMP 2283。

## 2. LC-MS/MS

- 1) 購入時（2016年）および初期の使用の検出感度が良好であったことをコンピュータに内蔵されているデータから確認した。
- 2) 感度低下の時期は2017頃であり、それ以降の使用を認めなかった。
- 3) HPLC の溶媒タンク（4個）を電気炉（300℃×10時間）で洗浄、再生した。
- 4) 使用手順書を作成した。
- 5) コロナウイルスの感染予防のため、2月中は外部からの業者の出入禁止のためにアジレントエンジニアによる保守点検による整備はできなかった。
- 6) 写真は IMG144620、144743

## 3. 遠心エバポレーター

- 1) 減圧力の低下の原因はポンプの減圧力でなく、配管の劣化による。
- 2) 新規配管に変えたら復帰した。
- 3) 50%メタノール水 2 mL の入った試験管（10本）を 50℃、2時間で運転した結果、完全に溶媒留去できた。
- 4) 使用記録台帳を作成した。
- 5) 写真は 143926

## 3. 遠心機

- 1) ローターの汚れが著しいので分解・清掃した。
- 2) 3,000回転×10分の運転結果、異常を認めなかった。

## 4. 電気炉と実験器具のクリーン

- 1) 電気炉は4台あり、上限温度が300℃（2台）と330℃（2台）である。
- 2) 電気炉の試験管洗浄力を温度と時間について、マジクインキの消失度でチェックした。
- 3) 青色マジクインキ記載のガラス機材は280℃×5時間で消失したが、黒インキでは消失を認めなかった。
- 4) 青色マジクインキ記載のガラス機材は300℃×8時間、300℃×10時間処理した結果、10時間で50%以下に消失した。
- 5) 写真は 143814

## 5. マイクロピペットの検定

- 1) 100  $\mu$ L および 1000  $\mu$ L 可変性マイクロピペットの精度管理を、精製水を用いて重量法で検定した。
- 2) 検定は全容量の 10、30、50、100%で実施。いずれも精度・正確度は5%以内で合格であった。

## 6. ドラフトの排気

- 1) アンモニア水と塩酸による白煙は良好に排気された。